

聖サモハン女子 家政大学漫画作法研究会

女子大生をもう一度

FOCUS

追いかける。大学生。

聖サモハン女子家政大学漫画作法研究会（サモハン）をご存じだろうか。単なる大学の漫画サークルの1つと思うことなかれ。そもそも「サモハン」という名前の大学は実在せず、その実態は深い謎に包まれている。今回は真相を確かめるべく、わたなべむぎほさん、ゆば野めくらさん、花童サナエさんを直撃した。



2012年10月の結成から1周年を迎えるサモハン。正規メンバーは4人、活動拠点は関西だ。結成当初は見切り発車だったと、むぎほさんは打ち明けた。「同人誌の初刊行を経て軌道に乗ってからは、ごんごん後付け設定が広がった」。設定、すなわち、サモハンとは架空大学のサークルなのだ。メンバーも学生ではなく、社会人ばかり。その中で各々が学生や教師といった「役」を演じている。そればかりか、校章や校歌まであるという本格派。

2012年10月の結成から1周年を迎えるサモハン。正規メンバーは4人、活動拠点は関西だ。結成当初は見切り発車だったと、むぎほさんは打ち明けた。「同人誌の初刊行を経て軌道に乗ってからは、ごんごん後付け設定が広がった」。設定、すなわち、サモハンとは架空大学のサークルなのだ。メンバーも学生ではなく、社会人ばかり。その中で各々が学生や教師といった「役」を演じている。そればかりか、校章や校歌まであるという本格派。

サークル名の「サモハン」は、アクション俳優サモ・ハン・キンポーから。インパクトの強さが決め手だと語る命名者のめくらさん。「女子大という究極のフェミニズムとアクションのミスマッチが逆に魅力的」と笑顔を見せた。サモハンでは、過去2回の同人誌『さもまん』発行に加え、USTREAMでのコアな漫画トークの配信も2回行っている。また来年2月には『さもまん』第3号を発行予定。

活動について「編集は孤独との戦いだが、みんなの作品を誰より早く読むことができると楽しみを打ち明けるむぎほさん。「創作が自己満足に終始せず、形になることにやりがいを感じる」とめくら

大学と漫画 作ってみた

さん。また漫画を描くサナエさんは「商業誌と違い」同人誌は、自分の中で一番輝く個性で勝負する世界。『さもまん』は私たち原石のきらめきそのもの」と熱弁した。

さもまんのコンセプトは「センチメンタルな女子大生像」。「女学生は、ささいなことですぐ心が揺れ動く、豊かな感受性を持つもの」とめくらさんは語る。その言葉のとおり、彼女たちの作品の中では、女の子がのびのびと自由に青春を過ごしている。「大学時代は無限に感じられ、とにかく無駄なことに時間を費やした。あの頃は良かった」と懐かしむ3人。結成の動機や大学サークルという設定は、忘れられない大学



時代を延長するためのもの。ところが、今後の展望については「いつかは解散する」とドライに応じた。理由を問えば「大学は卒業するもの」とのこと。いつかサモハンを巣立つその日まで、彼女たちは創作を続ける。

物は失ってから初めてその価値が分かるというもの。彼女たちが作りあげる「大学生活」を、私たち大学生はたっぷり謳歌できているのだろうか。（聞き手＝渡邊拓也）

◎用語解説

同人誌：趣向や目的を同じくする仲間が集って編集・発行する雑誌。同人雑誌。

◎人物紹介

わたなべむぎほさん：漫画作法研究会会長、専業主婦キャリアマスターコース3年

ゆば野めくらさん：母校にて教育実習中の文学部4年生

花童サナエさん：文学部2年生

◎背景

ときは西暦2012年
聖サモハン女子家政大学漫画作法研究会の女生徒達によって「さもまん」は創刊されました。

それから96年の歳月が過ぎ当時の会長の生家で「さもまん」が発見されたことを記念して装いも新たに復刻されることになりました。

今は失われてしまった女学生たちの繊細な感性を感じ取っていただければ幸いです。（HPより）

UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関西新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです